

第四章

座談会

「地域移行支援に携わるマンパワーの役割と課題」

座談会

地域移行支援に携わるマンパワーの役割と課題

関東班委員会

関東班座談会開催の経過

精神障害者の退院促進と地域生活移行後の支援体制の強化のため、精神障害者地域移行支援事業が全国各地で展開される中、同様の事業が多様な団体によって行われている。

昨年度、社団法人日本精神保健福祉士協会では地域体制整備コーディネーター養成研修プログラム開発及びテキスト作成を、厚生労働省の障害保健福祉推進事業補助金にて実施した。関東班にはこの事業に携わったメンバーが複数いることから、そこでの議論を踏襲し、モデル研修の実施結果を踏まえ、域移行推進員研修の企画・実施を担うことになった。

企画にあたり第二章3、「地域移行推進員・関係スタッフ研修報告」に記載したように、そもそも本事業は何故必要なのか、どのように実施することを私たちは求めているのか、長年にわたり精神障害を持つ方の退院支援や地域生活支援の一端に、一専門職として従事してきた立場から再考して研修企画に取り組んだ。

その過程で話し合われたこと、及び地域移行推進員と地域体制整備コーディネーター、行政担当者の各研修を終えた今、精神障害者の地域移行支援に携わるスタッフのあり方等について改めて話し合い、合わせてこのプロセスを多数の関係者に共有していただきたく、座談会の場を設けることとなった。

日 時：平成22年3月5日(金) 15時～17時

場 所：東京都新宿区四ツ谷

出席者：岩上 洋一（特定非営利活動法人じりつ）

國重 智弘（多摩在宅支援センター円）

相馬 妙子（かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク（KCN））

吉田 展章（藤沢市地域生活支援センターおあしす） 敬称略、五十音順

司会兼記録：田村綾子（日本精神保健福祉士協会）

田村：地域移行推進員（以下「推進員」）研修を全国版で実施するのは初めてだったので、ここでは各都道府県の推進員の実態調査（第二章3．地域移行推進員・関係スタッフ研修 事前アンケート報告参照）をまず行い、その後、多様な職種・立場の方が各地なりの工夫や制約の中で従事している実情を踏まえて、最大公約数に近い内容を盛り込み2日間のプログラムを行った。講師・スタッフとして参加した皆さまの率直な感想はいかが？

相馬：研修を通して、内容は良かったのではないかな。推進員同士で集まって話をする経験がない

人もおり、同じ立場で問題を共有する機会を提供できた。専門職が推進員を担っている人が意外と多いと感じた。専門職でない人にとっては、内容も始めて聞くところが多かったであろうと思う。

演習の効果は自分の担当したところしかわからないが、グループごとに差があることは課題であったと思う。

岩上：ファシリテーターが2グループ担当するのは難しい。各グループにファシリテーターがいないと進行は難しい。演習に馴れていない人もあり、配置すべきだったと思う。

田村：全国各地で本研修を開催するとした場合、ファシリテーターの確保が可能な地域と、そうでない地域もあると考えられるため、あまりファシリテーターの力量任せとならない企画が求められるだろう。

吉田：グループの目標設定と構成によっては、ファシリテーターが全体の進行管理をしていく事も可能。受講生の状況と目標設定によるのではないかと？

そもそも、推進員や地域体制整備コーディネーター（以下「コーディネーター」）のためだけの研修は必要か？ということを考えなければならぬのではないかと？対人援助技術の習得研修なのか、事業推進の研修なのか。両方を習得するのであれば1日半では難しい。地域移行とは？という研修が必要なのか？

根本的な話（病院は生活の場ではない）を実践するための事業のひとつ、という位置付けの方がすっきりする。

推進員が孤立して困っている。相談者がいないという状況が見えた。内向きの仕事になりがちな現状を感じた。

都道府県単位で推進員の研修やサポート体制を整える必要があるのでは？

田村：そもそも、こうした研修は、全国レベルでの開催が望ましいか？

岩上：推進員が、「この研修を受けてとても勉強になった」と言っていたが、地元に戻った後のサポート体制がないと研修の意味を見いだせなくなるかもしれない。都道府県のサポート体制をつくる人向けにどんな研修やどんなサポートが重要かを伝える必要がある。今回は実際に携わる人の研修をしているが、本来は全国単位ですべきことではないだろう。実際には、地元の仕組みがない中で、推進員だけに研修を積み重ねてもつながらぬ。

吉田：都道府県の研修担当者への研修があるべき。都道府県としての積み重ねが残らないといけぬ。既存の相談支援従事者研修と組み合わせる等、という方法もある。

個別支援（対人援助）の研修はもともとあるので、地域移行を周知する目的を付加させていく形も可能ではないか。

岩上：確かに、相談支援専門員の研修のオプションで、さらに積み上げる方法もある。また、都道府県の研修体系の中に推進員の役割を担える研修を入れていくこともできる。

吉田：保健所の方にも所属都道府県での研修企画に備えて、積極的に指導者研修に入ってもらふ必要がある。

市民サポーターにも期待したい

田村：研修の受講対象者についてのイメージは？

相馬：今回、推進員を担っている方々のイメージがわからないため事前調査を実施した。専門職ではない方やピアの方もあり、相談支援従事者研修と同様の内容（特に個別支援についてのケアマネジメントの手法について）では伝わらないこともある。

なので、都道府県別に推進員に合わせた研修をしていくことを考えないと、なかなか伝わっていかないのではないかと。モデル研修のイメージを伝えていくことが、全国研修の役割かもしれない。

むしろ、非専門職が支援者の仲間に入ってきて、地域での障害者支援に携わることは良いのではないかと。

国重：モデルを提示しておかないと、医療機関が中心のところなど、推進員が本来と異なる役割を担ってしまうことが懸念される。

吉田：そういう意味では、専門職ではない人にも基礎の部分を知ってもらいたいと思う。相談支援従事者の初任者研修などは受講要件に縛りがあるので、無理があるが。

専門特化した話ではなく、人が地域で暮らすとは？という研修が地域で行われていける様なイメージ。

国重：地域移行が入っていくことにより、広がっていく可能性がある。

岩上：推進員を通して地域の理解者を増やすということのひとつの柱にすれば、良いのではないかと。

相馬：実際に専門職以外は推進員をしている「推進員兼民生委員」などもある。兼務で地域の仕事をしている人がいて、こういう研修を通して、精神障害者の歴史や事実を学んでもらう機会になることも意味があることだと思う。地域に伝える効果は考えられる。

デメリットはどこまでが専門性か、守秘義務などを整理する必要はあるが。「市民サポーター」という社会資源を増やす考え方に繋げて良いのではないか。

吉田：推進員の方の役割を上げていくだけでは、推進員の抱える課題を押しつけてしまうことになってしまう。個別支援をしっかり担い、一方で地域づくりを担っていく役割の人との協力体制が必要。専門職がしっかり退院させてくれて、地域には理解者が散在している仕組みを作るべきではないか。

推進員の役割を明確にした上で、地域の協力体制をつくるべき。

岩上：一般の市民を推進員にするためには、専門職である相談支援専門員も必要で、重層的に支援者を増やしていくことになる。あるいは、ピアサポーターは、注目されていて、推進員とは別の位置付けができる方向ですすんでいる。これと同じように、市民力を活用した仕組みをつくることを考えて、市民の人達にも入ってきてもらうためには市民サポーターとして、ピアサポーターに横づけすることも必要では。

田村：精神障害を持つ方の退院支援は専門職の業務としてきちんと行い、時にはピアの方にもご協力いただく。地域生活においては支援という枠組みだけでなく、市民同士の輪を広げていく、つまり理解者を増やすことも必要で、そこにはピアの方々や地域市民の参画も求めたいということだろう。

コーディネーターと推進員の役割が混在しているけれど！

田村：地域作りという観点では昨年度からコーディネーターの配置が掲げられているが？

相馬：コーディネーターと推進員の混在も同じ構造。

岩上：現状では多様なコーディネーターと推進員が存在している。

国重：ケアマネジメントを担う人は必要。直接支援する人も必要。ケアマネジメントを行う人をコーディネートする役割の人も必要。

岩上：ケアマネジメントを誰が担うのかによって、その役割も変わってくる。本来はこの事業を委託した相談支援事業所にケアマネジメントをする推進員とコーディネーターがいるというのが国の構想。でも、実際は、コーディネーターが保健所職員であったり、推進員が非専門職で個別支援計画がつくりにくかったりして、結局、コーディネーターと推進員の役割分担も都道府県にお任せしているのが現状かな・・・。

相馬：都道府県にお任せとするのであれば、その都道府県単位での研修にしないと難しい。

吉田：状況が混沌としているので、研修の目的と対象は明確にしづらいという課題がある。

岩上：今回の推進員研修は、基本的に地域移行を進めるための内容を総合的に盛り込んでいたのでモデルは示せたと思う。これを膨らませて、都道府県の状況に合わせて展開していただくことになるのでは。

吉田：都道府県が主体的に企画をする形。

岩上：推進員は、専門職としてきちんとやりましょう。ピアや市民には地域移行でもお手伝い願って、地域生活の定着にもつなげていきましょう。

ピアサポーターの役割や位置づけは？

田村：次年度からピアサポーターの活動費も予算化されると聞いているが、どのような役割が期待されるか？

吉田：相談支援事業所が中心となり地域移行を推進し、地域生活を定着していく。相談支援事業所の認識の低さもあるだろうが、重要な仕事として位置づいていくべきではないか。ピアって、いつまでピアなのか。推進員としての役割であるならば推進員として雇用すれば良い。ピアとしての役割が仕事となるのであれば、ピアの持つ力に何らかの報酬をつけるべき。推進員の役割がケアマネジメントであるならばピアの推進